

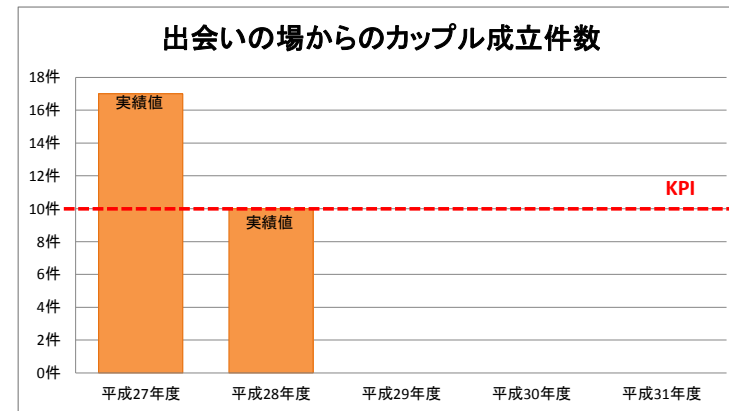
1 総合戦略効果検証シート					
3-1-1		①	出会いの場の創出、支援		
担当課		重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値			基準値 ※2014 (H26) 年度
健康福祉課		出会いの場からのカップル成立件数	10件	2件	
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	3件	10件	10件		
実績値	17件	10件			
年度目標に対する達成率	566.7%	100.0%			
基準値に対する増減率	750.0%	400.0%			
評価	◎	◎			
取組内容 PLAN	男女の未婚化・晩婚化を行政課題として認識し、市が積極的に結婚希望者等に対し「出会いの場」を提供し、婚姻に至るまでのサポートを実施する。				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を・・・) DO	<p>「出会いの場」を提供する。</p> <p>【各種団体主催】</p> <p>①5月22日 羽咋市青年団協議会 ②10月22日 はくい縁の会① ③12月18日 はくい縁の会②(カップル成立2組) ④2月11日 羽咋市社会福祉協議会(カップル成立2組)</p> <p>【市主催】</p> <p>①12月24日 恋愛力アップセミナー、クリスマスパーティー (カップル成立4組) ②2月18日 心結び体験とおもてなしパーティ(カップル成立3組)</p>				
分析 Check	<p>①女性参加者数が増加している</p> <p>②企画内容の充実</p>				
対応方向 Action	婚活イベントを行う団体や飲食店に対し、事業の経費の一部を補助する。				

評価項目

◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

意見	平成27年度 ①出会いを創出するには「婚活」という名称を出さなくてイベントを開催したほうがよい。「婚活」というと女性は参加するときに身構えてしまう。 ②市の補助金制度を活用し、気軽に集まれる場を開催したらよいと思う。
	平成28年度 ①もっとイベントの周知に力を入れていく必要がある。 ②結婚ばかりを押し出すのではなく、気軽な出会いの場とすれば参加しやすい。 ③参加者の生活にプラスになるような情報が得られたり、文化活動を目的とれば参加者が気軽に楽しい時間を過ごせる。
H27 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展
H28 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展

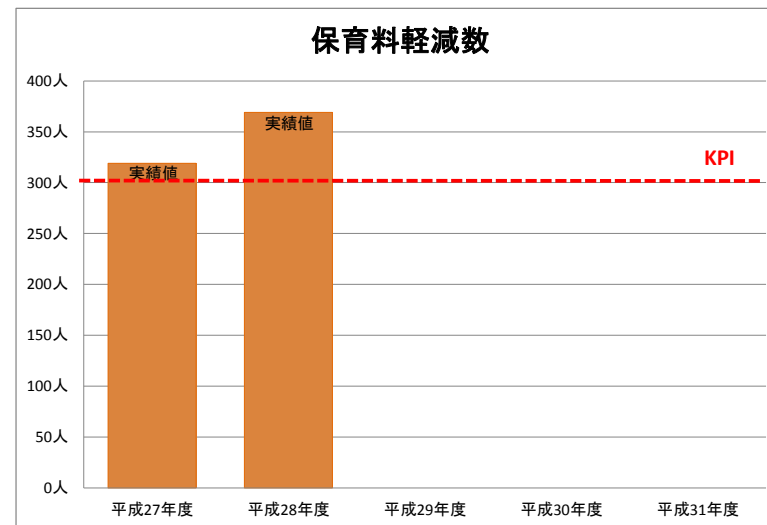
2 総合戦略効果検証シート					
3-2-1		①	子どもに係る経済的負担の軽減		
担当課		重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値		基準値 ※2014 (H26) 年度	
健康福祉課		保育料軽減数		300人	324人
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	300人	357人	300人		
実績値	319人	369人			
年度目標に対する達成率	106.3%	103.4%			
基準値に対する増減率	-1.5%	13.9%			
評価	◎	◎			
取組内容 PLAN	安心して子どもを産み育てられる環境の整備として、保育料の軽減条件を変更する。				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を...) DO	同一世帯で複数の子どもがいる場合、第2子は半額、第3子以降は無料とする。				
分析 Check	保育料の軽減世帯が増えた。				
対応方向 Action	今後も引き続き検討する予定。				

評価項目

◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

意見	平成27年度 ①減額競争には限度がある(財政の豊かな市町が有利)ので、ソフト面で羽咋ならではの工夫が必要では。 ②実施内容を広く広報してください。
	平成28年度 ①補助制度を市内外にもっとPRしなければならない。 ②羽咋市の住みやすさ、良さをもっと知ってもらうよう努力する必要がある。 ③市外に向けての情報発信が不十分である。
H27 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展
H28 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展

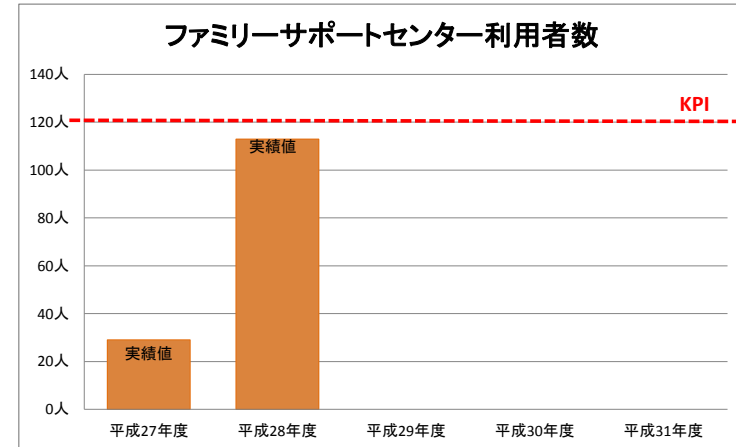
3 総合戦略効果検証シート					
3-2-2		③	家庭保育支援の充実		
担当課		重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値			基準値 ※2014 (H26) 年度
健康福祉課		ファミリーサポートセンター利用者数	120人	116人	
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	110人	110人	110人		
実績値	29人	113人			
年度目標に対する達成率	26.4%	102.7%			
基準値に対する増減率	-75.0%	-2.6%			
評価	△	○			
取組内容 PLAN	乳幼児から小学生を対象に、育児の援助を受けたい人(依頼会員)と行いたい人が会員(提供会員)となり、子どもの預かりや送迎など育児についての助け合いを行っている。				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を...) DO	利用件数 24件				
分析 Check	ファミリーサポート活動の周知が必要 急な依頼に対応できる提供会員の確保が必要 依頼会員が利用しやすい時間割や料金体制が必要				
対応方向 Action	乳幼児健診での周知活動 提供会員の活動時間の把握と確保				

評価項目

◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

意見	平成27年度 ①お母さんたちが安心して利用が増えるように、4か月健診や両親学級など育児負担が増えるときにもっと周知することが大事である。 ②看板等を作って、使いたいときに見えるようにすることも必要である。
	平成28年度 ①提供会員(保育をする人)の報酬が低い。 ②提供会員に心にゆとりを持って保育をしてもらうために、報酬を上げて良いのではないかと。
H27 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展
H28 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展

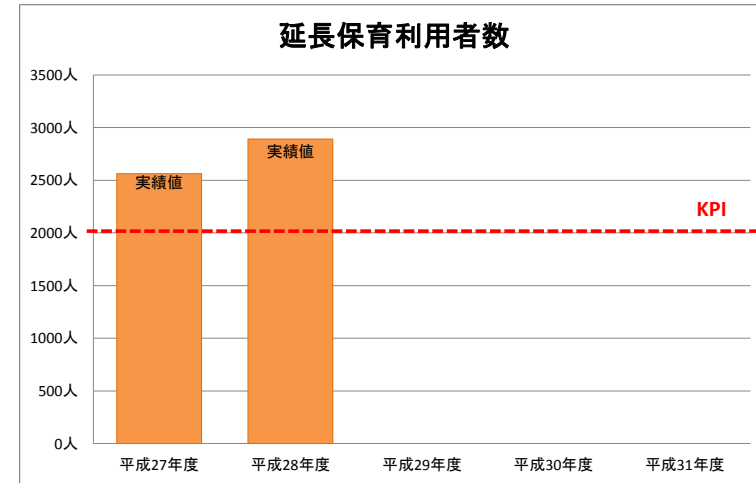
4 総合戦略効果検証シート					
3-2-3		① 保育ニーズに対応した保育所運営			
担当課		重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値		基準値 ※2014 (H26) 年度	
健康福祉課		延長保育利用者数		2,000 人(延べ数)	1,900 人(延べ数)
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	1930人	2500人	2800人		
実績値	2563人	2891人			
年度目標に対する達成率	132.8%	115.6%			
基準値に対する増減率	34.9%	52.2%			
評価	◎	◎			
取組内容 PLAN	必要量に応じた質の高い保育サービスを提供する。				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を…)	保護者の就労形態の多様化等に対応するため、通常の保育時間を超えて児童を保育する体制を整備する。 利用時間は、保育標準時間(11時間保育)については、18:00~19:00(利用料300円)となっている。また、保育短時間(8時間保育)については、7:00~8:00(利用料100円)、16:00~17:00(利用料100円)、17:00~18:00(利用料100円)、18:00~19:00(利用料300円)としている。				
分析 Check	急な延長保育依頼にも応じるなど、保護者ニーズに対応できた。				
対応方向 Action	今後とも、延長保育受け入れ体制を維持していく。				

評価項目

◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

意見	平成27年度 ①保護者にとっても必要であり、とても便利である。
	平成28年度 ①利用者も多く、良い制度である。このまま事業を継続していただきたい。
H27 総合評価	○ 取組内容の継続
H28 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展

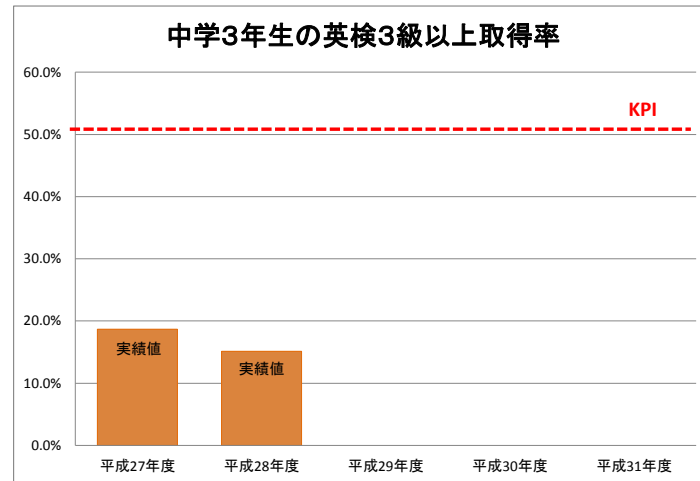
5		総合戦略効果検証シート			
3-3-2	①	国際的に活躍できる人材の「卵」の育成			
担当課		重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値		基準値 ※2014 (H26) 年度	
学校教育課		中学3年生の英検3級以上取得率		50%以上	なし
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	25.0%				
実績値	18.7%	15.1%			
年度目標に対する達成率	—	—			
基準値に対する増減率	—	—			
評価	×	△			
取組内容	PLAN ①外国語指導助手 (ALT) を配置し、中学校と連携した英語教育を推進 ②英検受験を促す奨励費支給制度を検討				
実績 (具体的例:いつ、誰が、どこで、何を…)	DO 小中学校への外国語指導助手の学校派遣による、英語コミュニケーション能力の育成を実施。また、平成29年度からの英検受験料奨励費支給に伴う作業を実施。				
分析	Check 平成28年度、英検の取得率は、羽咋中学校12.2%、邑知中学校27.8%、受験率は羽咋中学校25.0%、邑知中学校38.9%であり、取得率の向上のためには、受験率を上げることが必要である。 ※取得率=中学3年生の英検3級以上の合格者数/中学3年生の全生徒数 ※受験率=中学3年生の英検3級以上の受験者数/中学3年生の全生徒数				
対応方向	Action 外国語指導助手 (ALT) の増員により、引き続き小学校からの英語教育の充実、能力アップを図る。また、「英語検定受験料奨励費支給制度」を開始し、受験者数と合格者数の増加を図る。				

評価項目

◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

意見	平成27年度 (KPI: 中学生の英検3級合格率) ①目標値が国の指標を大きく下回っている。財源の問題もあるが、施策への意欲が問われるのでは。 ②ALTの増員により生きた英語に接する機会をすべての子ども達に増やすことはgood! 英検での評価は疑問。広い視野で世界を見る取り組みもぜひ。 ③英検3級は中学校の学習範囲そのものなので、合格率7.5%や16.2%は低すぎると思う。50%はほしいところ。 ④金沢市や輪島市では英検合格率高い。金沢市の子は塾に通っている子が多く、輪島市では受験料が免除されている。 ⑤そもそも英検を受ける子が少ないので、受けようという意欲を持たせることが大事。
	平成28年度 ①H29年度から受験料の半額を助成しており、英語力向上のいきさけとなっている。 ②中学3年生の50%の生徒が英検3級以上を取得するという目標は、ハードルが高いのではないか。 ③今後、受験料の助成を拡大することで、より良い成果に繋がるのではないか。
H27 総合評価	△ 取組内容の見直し
H28 総合評価	○ 取組内容の継続

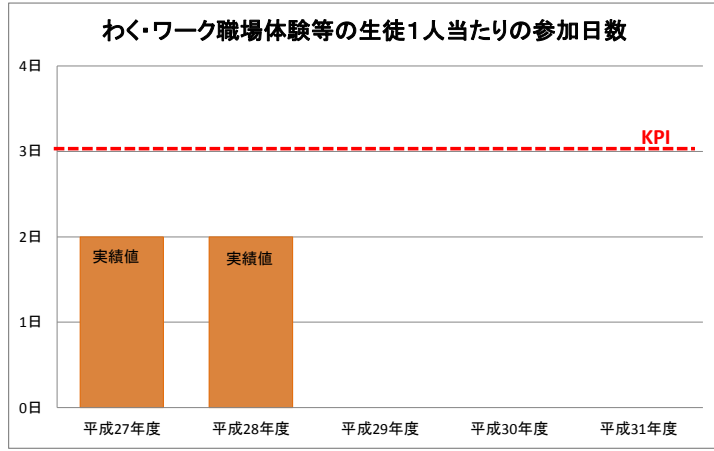
6						総合戦略効果検証シート					
3-3-2		③		キャリア教育の推進							
担当課		重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値				基準値 ※2014 (H26) 年度					
学校教育課		わく・ワーク職場体験等の生徒 1人当たりの参加日数		3日以上		2.5日					
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度						
目標値			2.5日								
実績値	2日	2日									
年度目標に対する達成率	—	—									
基準値に対する増減率	-20.0%	-20.0%									
評価	○	△									
取組内容 PLAN	市内2校の中学校2年生が、市内の事業所で、職場体験学習を実施する。										
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を…)	1つの事業所に2名1組とし、邑知中学校では7月28日から30日。羽咋中学校では、8月18日から20日の3日間実施。 ①羽咋中学校=2年生(155人)48事業所1人2日間の職場体験実施 ②邑知中学校=2年生(36人)16事業所1人2日間の職場体験実施										
分析 Check	生徒に、わく・ワークの意義をしっかりと説明し、各事業所に対して失礼のないよう、外部講師を招き、実践指導を徹底したことで、社会に出て活動するにあたっての職場でのルールが体験できたとともに、礼儀・マナーの向上が見られた。										
対応方向 Action	次年度についても、キャリア教育の一環として、わく・ワーク職場体験を実施し、自分の将来について考える機会とするとともに、社会人としてのルールや礼儀、マナーなどを身につけさせる。可能であれば、1事業所だけでなく、複数の事業所を体験させる。また、わく・ワーク以外でも、課外活動やボランティア活動等、確かな体験を通じた取り組みも行っていく。										

評価項目

◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

意見	平成27年度 (KPI: わく・ワーク職場体験事業所数) ①キャリアアップにつなげるのであれば、もう少し視野を広げた事業内容や取組みにする必要がある。 ②わく・ワークについても、現状一人1事業所だが、目標70事業所ならば一人2事業所にしたり、受け入れる事業所に対する説明等のサポートをしたり、充実させるための見直しが必要である。
	平成28年度 ①協力事業所の負担が大きく、協力事業所のメリットが少ない。 ②協力事業を広報に掲載するなど、協力事業所のメリットを考えなければならない。 ③今後、市が協力事業所を新たに開拓し、事業全体を見直す必要がある。
H27 総合評価	△ 取組内容の見直し
H28 総合評価	○ 取組内容の継続

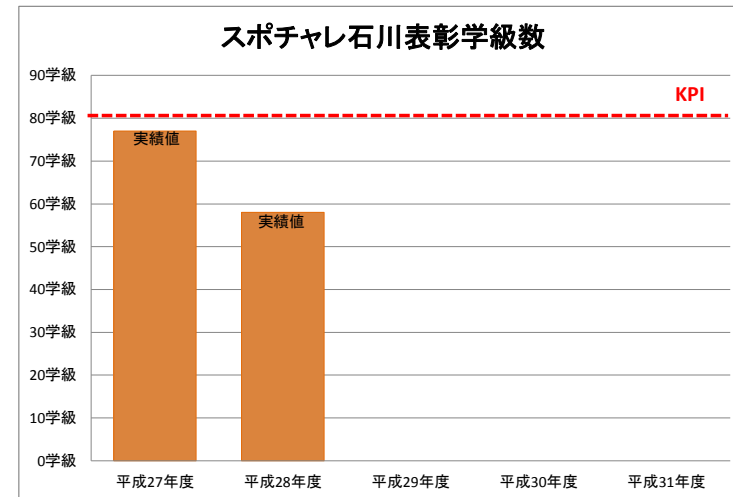
7 総合戦略効果検証シート					
3-3-2		④	体育・健康に関する活動の充実		
担当課		重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値			基準値 ※2014 (H26) 年度
学校教育課		スポチャレ石川表彰学級数		80学級(重複含む)	76学級(重複含む)
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値			80学級		
実績値	77学級(重複含む)	58学級(重複含む)			
年度目標に対する達成率	—	—			
基準値に対する増減率	1.3%	-23.7%			
評価	◎	△			
取組内容 PLAN	市内全小学校のすべての学年で、スポチャレいしかわのベスト部門とチャレンジ部門のそれぞれ4種目を実施。				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を…)	毎年5月から始まるスポチャレいしかわに参加し、全小学校すべての学年で「スポチャレ40m、8の字、シャトルボール、長なわ」の4種目を実施。体力アップ1校1プランを通して、体力テストの弱い部分を強化するなど、体力の向上を図った。				
分析 Check	実施結果において、前年度より表彰学級数が下がったが、体力テストの結果では、8校中6校が県平均を上回っており(A B判定の割合)、各校の取組の成果が見られた。				
対応方向 Action	次年度以降、放課後や休み時間を利用し実施するなど、各校の実状に応じて、スポチャレの取組回数を増やしていく。				

評価項目

◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

意見	平成27年度 (KPI: 体力テストA B判定小学4~6年生) ①市の独自性が見られない。 ②体力向上は良いが、顧問の先生に負担がかかりすぎることは避けてほしい。(中学校) ③中学校でも同じテストを行っているはずなのでそちらも気になる所。 ④評価だけでなく、結果に応じた対応もセットで。Actionの内容がわからない。 ⑤小学校と中学校で別のKPIにできないか? KPI見直しを求む。
	①子どもたちの体力がアップし、クラスも盛り上がるよい取組みである。 ②基本は県の事業であり、市独自の取組みが欠けている。子どもたちのやる気に繋がるような市独自の取組みをすることで、更により成果に繋がる。
	H27 総合評価 △ 取組内容の見直し
H28 総合評価 ○ 取組内容の継続	